高校演劇戯曲選

VII

佐々俊之●坊丸一平●町井陽子＝編

SF作品集!

●里はやまぶき●小寺隆韶
●医者よ、自分を癒せ●坊丸一平
●ミクロ幻想●岡部　淳
●女王陛下とクーデター●町井陽子
●食欲のないおはなし●佐々俊之
●エレベーター●黒羽英二

高校演劇戯曲選 VII

佐々俊之●坊丸一平●町井陽子＝編

晩成書房

まえがき　2

里はやまぶき●小寺隆韶　3

医者よ、自分を癒せ●坊丸一平　55

ミクロ幻想●岡部淳　99

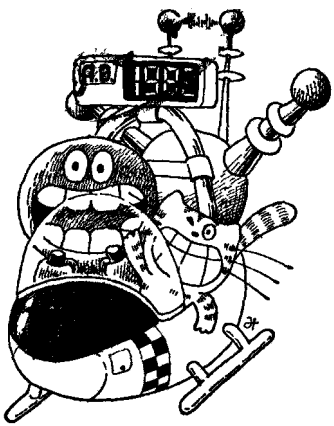
女王陛下とクーデター●町井陽子　149

食欲のないおはなし●佐々俊之　199

エレベーター●黒羽英二　237

上演許可願について　285

作者住所　287



まえがき

はＳＦドラマの特集です。

ら、ＳＦ……という声があるかもしれませんが、これ程、ＳＦの小説やコミックが高校生気があるのに、意外とＳＦのドラマは少ないのです。ＳＦの各種のテーマや状況設定は、ひねり出したような観念的なドラマより、遙かに現代的だし、高校演劇にふさわしい題材るのですが、どうでしょう。言ってみれば、この第七集は、高校生諸君への「ＳＦドラマ」です。ＳＦドラマなら、諸君の方が、きっと先生方よりずっと上手なんじゃないか、と込めて、いままでに発表された先生方のＳＦドラマの話題作を並べてみました。

「里はやまぶき」は、タイムスリップして縄文時代に仲間入りしてしまった二人の高校種の「神隠し」テーマです。坊丸一平「医者よ、自分を癒せ」は、逆に未来人が現代にベルしてくる話。結末がタイムパラドックス風な解決になっています。岡部淳「ミクロ孤独な少女が落ち込んだ幻想の世界です。少女を取りまく現実の厳しさをＳＦ的発想でかいドラマに仕立てています。町井陽子「女王陛下とクーデター」は、「男と女」という古くて新しいテーマを扱っているのですが、スペースオペラでおなじみのアマゾネスの女王誕生の物語と見ても面白いでしょう。佐々俊之「食欲のないおはなし」は、冷凍睡眠（コールドスリープ）して、高度の未来社会を見てしまった男の話。反ユートピアテーマの皮肉が利いています。黒羽英二「エレベーター」は、メトロポリス系統の管理型未来社会がテーマです。出口を求めて挫折した男の悲劇は、現代社会そのものだと言えましょう。

では、高校生諸君、先生方に負けずに、大いにＳＦドラマに挑戦してください。

里はやまぶき

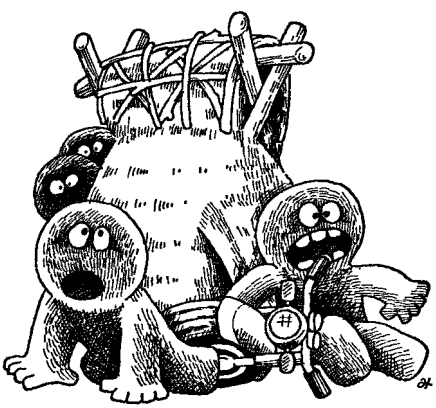
小寺隆韶

登場人物

熊野　健（高校生）
曽我　茂（　〃　）
ウタル（縄文期の長老）
キルイ（その娘）
ノルイ（縄文期の巫女）
トルオ（その娘）
その他　縄文期の人々

時　やまぶきの咲く頃

所　八戸市近郊　島守盆地辺り



第一景

バイクの進行音。急激にとまる。ヘルメット片手に茂と健が出てくる。

茂　八十キロは出ていたからな。久し振りでスカッとしたども、後に乗って青くなっていたのと違うのか？

健　本当に、山の奥って感じだね。

茂　山の奥は嫌いか？

健　田舎は好きだ、僕。

茂　無理しなくてもいいって。都会から転校して来たばかりの秀才がよ、珍しがって喜ぶこともねえのだんだ。

健　やまぶきの花、まだなの？

茂　こだわるんだな、やまぶきの花に。

健　花と咲けども実がならぬって、和歌に詠みこまれてるだろう。勉強に追い立てられている僕達はさ、花と咲こうとばかりしていて、実質ってやつを持てないんだ。だから、茂君がバイクでやまぶきの花を見に行くって聞いたら、無性に僕も行きたくなって。

茂　俺もびっくりしたんだ。お前が転校して来た時、熊野健なんて、都会育ちにしてはごつい名前コだなくらいに思っていただけで、話もしたことがなかったべ。それが街で逢って、ようっていったら、どこに行くんですか？　と聞くもんだ。こっちもよ、一応かっこうつけて、やまぶきの花を見に行くと言ったら、僕もつれてってくれないかときた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

女の子だらまだしも——。

健　誰か約束があったんじゃない？

茂　そったのがいだら、誰がお前を乗せて来るって。今日はアブレ。しかし女の子乗せてぶっ飛ばせば面白いな。始めはよ、静かに乗ってんだ。ぐんぐんスピードをあげると、肩につかまり、そのうちぎゅっと腹まで手を回してくる。背中にぴたっとくっつくと——。

（ふっと黙る）

健　悪かったね、僕で。

茂　だから、今日は相手がいなかったのだ。

健　やさしいんだね、茂君。

茂　へ！　やさしいだのって。俺の噂を学校で聞かなかったのか？

健　やさしさってさ、現代の人間が一度見失って、いま必死になって取り戻そうとしているものなんだってね。

茂　本当に、俺の噂、聞いてないのが？

健　どんな噂？

茂　んだら別にいいべ。（煙草を出し、一本くわえてから健にすすめる）

健　（首をふる）

茂　そうだべな。今度来た熊野健って、真面目に馬鹿がついて、頭の出来も人と違うって

話コだからな。しかしお前もなんだよ。転校して来て、いきなり校内実力テストでトップを取ることもねえだろ。少しは遠慮するもんだ。あの頭、少しぶん殴って、まともにしてやれって奴もいたからな。

健　僕は、転校して来たその日に君の名前だけは知ったんだ。

茂　どうして？

健　君さ、授業時間に居眠りしてたでしょう。先生が怒って、君の肩を揺って起こしたよね。そしたら君、別に授業の邪魔をしているんじゃないからいいだろうってまたうつぶせになってしまった。先生が、曽我！　曽我！　って怒鳴って。

茂　いつもの事だよ。

健　で、名前が頭に刻みこまれちゃった。

茂　今度処罰されるような事しでかしたら、退学だってよ。担任にさ、月日を入れない退学届を取られてんだ。俺は、学校辞めたほうがさっぱりするけどな。

健　僕だって同じだよ。小学校の時から塾に通って、少しばかり成績がいいからって期待されて、誰のために机に向かっているのか、ふと我に帰ることがあるんだけど、それでいて机に向かってないと不安でならないんだ。本当は学校辞められるんなら——。

茂　無理するなって。人には向きってものがあるんだ。お前はさ、学校にしがみついて行く。どうせ、いい大学に入ってエリートってやつになる訳だ。俺はバイクにしがみついているのが性に合ってるども。

健　頭の中をがんじがらめにしている学校とか勉強から、思いきり脱出したい気持ちは本当なんだ。

茂　それで、やまぶきの花か？

健　大丈夫、咲いてんでしょうね。

茂　ああ、やまぶきの里みてえに、花で咲き埋まってる。

健　そこに連れて行ってくれる訳ね。

茂　あと十分も飛ばせば着くべ。

健　やっぱり、茂君て優しいんだ。

茂　またそれだ。俺な、優しいということばが嫌いなんだ。これからは使わないでくれよな。

健　でも、花を好きな人――。

茂　（怒鳴る）花だって、好きな訳じゃないんだ。

健　――。

茂　じゃ、行くか。

二人去る。バイクの発進音。少し長く聞こえる。

茂　少し飛ばすからな。しっかりつかまってろよ。

健　もうすぐなんですね。やまぶきの里。

茂　いいか！

健　思いきり飛ばしてもいいよ。

茂　よし行くぞ！

バイクの音、急激に高まる。長く続いて激しいきしみ。不意にバイクの音が消える。

健　あ、茂君！

茂　う！　ああ——。

激しい破壊音、底深く聞こえてくる。静寂。続いて幽玄な感じの音楽が、地を這うように流れてくる。

第二景

幕開くと、縄文期を思わせる住居群の遠景が見える。ゆったりした林の中。少し小高い岩場が上手にある。そこによろめき出てくる曽我茂。

茂　まさか、まさか助かった訳でねえべな。あ、あのカーヴを曲がりきれなくて、いきなりバイクが空に浮かんだ。そして、あの目もくらむ崖っぷちを落ちたんだから、どう考えだって助かる訳ねえ。今おらがこうしているのは、夢、夢だべ。どこを捜してもバイクの破片もねえ。熊野の奴もいねえ。ここはあの世か、きっとあの世だごった。

突然、びくりと硬くなる。

茂　あの世だとしたら、どっち？　地獄か、それとも極楽かい？　俺が極楽？　似合わねえな。す、すれば地獄だ！　ああ、学校であまり突っ張った真似しねばよがった。あれが祟っているのだべ。

不意に上手から、縄文人らしき風体の男女、楽しげに語り合いながら来る。物音で、あわてて物陰に潜んだ茂、見送りながら軀を乗り出してくる。

茂　地獄にしては、どことなくのんびりした顔つきだな。すると、ここは地獄でねえかもしれねえ。せば、ここは極楽？　ほ！　まさか。いや、まさかの本当ってやつが？

さっきの男女、小走りに戻ってくる。茂を見て驚く。茂、何か話しかけようと近寄るが、口をきけない。男女、叫びをあげて走り出る。

茂　見たことねえ顔だ。しかし、どう考えでも極楽ではねえな。金色の花コがぱあっと咲いて輝いで、有難い鐘の音コ聞こえる訳でもねえ。これあ、地獄と極楽の中間が？

高みから、遠景を眺める。

茂　しかし、此処はどこなのだ？

遠くから、「茂君」と熊野の声。

茂　何？　俺を呼んでる。し、しかもあれは熊野の声だ。お、おう、熊野！　ここだ——。

大声で叫ぶが、はっと身をひそめて隠れ、顔だけ出す。

茂　もしかして、罠かけてるかもしらねえがらな。本当に熊野だべか。さっきあれ程さがしたんだ。あ！　来た。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

茂が隠れると、熊野が現われる。

健　茂君！　曽我君。やっぱりいない。あの崖から落ちた時、やはり死んでしまったんだ。しかしそれならそれで、死骸があったはずだ。それが、バイクまできれいに消えてしまっている。気がついたら、僕だけちょこんと石に腰かけていた。きっと、気絶していた僕を、誰かが車で運んで来てくれたんだ。しかし、茂君は気の毒なことをした。あんなに優しい人を道連れにしてしまった。あの崖は一〇〇米はあったからな。そこを真逆さまに落ちたんだ。僕のほうが悪運強かったのか。良い人だったのに、優しい、本当にやさしい——。

突然、茂が飛び出してくる。

茂　まだ優しいのだって。本当にぶん殴るど！

健　あ！　茂君（思わず抱きつく）生きていたのか君。

茂　おい！　気持ち悪くなる。離れでくれ！

健をおしのける茂。

健　無事だったのか――。奇蹟だね、これは。あの崖を飛んで、二人とも生きていられるなんて。

手放しの喜びようだが、浮かぬ顔の茂に気付く。

茂　俺たち、本当に生きているのが？

健　この通り、ピンピンしてるじゃないか。

茂　んでも、あの世ってこともあるからな。

健　あの世？

茂　死んでからの世界。そのう、極楽とか地獄って、寺に行けば掛け図についてる。

健　ここが？　まさか。大体、来世を信じているのがおかしいよ。

茂　んでも、あの崖を落ちたのだからな。一回死んで、それから生き返ったんじゃないのか？　妙な人間とは逢うし――。

健　人と逢ったのか？

茂　ああ、若い男と女だ。なんか遠い国の別世界の人みたいでよ。

健　僕だって、不思議な所に迷い込んだ予感はあるさ。

茂　あの世だべ、きっと。

健　超現実の現象ってさ、推論としては成り立っても、結局は絵空事だからね。非科学的な

事は考えないほうがいい。

茂　舌かむようなこと、しゃべるな。お、おい、来た！

茂が怯えて指さす。二人、物陰に隠れる。ウタルとその娘キルイが現れる。縄文服ながら、ウタルには長老の重々しさがある。

ウタル　休もうか。キルイ、わしは疲れた。

キルイ　行かねばよいのに、ウタル！

ウタル　祈り忘れてはならない。

キルイ　祈りより、いたわりが大切だと思う。

ウタル　それは、いたわりも大切。

キルイ　祈りは神へのよりかかり、いたわりは生きている人の心を結ぶもの。祈りで心は熱くならぬ。いたわりだと、胸にかっと暖いものが流れてくる。

ウタル　キルイ、お前も男子（おのこ）を待つ歳になったのだな、きっと。

キルイ　そう、男子と逢いたい。でも男子は、祈りではやって来ぬ、いたわりで結ばれるものだから。

ウタル　お前の年頃はみな、いたわりを何よりも大切にしたがる。しかしそのいたわりも、祈りから生まれるものじゃ。慎しやかな心がなくて、なんのいたわりじゃ。山を祈り、

日を拝み、木々の葉に手を合わせる心を忘れて、いたわりと優しさだけを欲しがる。これが、間違いの源だて。

隠れていた茂、ひょいと顔をのぞかせて、健をつつく。

茂　畜生！　おらが居るとわかって、優しいだのってしゃべる。

健　まさか、そんな。

茂　それにしても、この村の娘コは正直だ。男に逢いたいって正面からしゃべってる。

キルイ　いたわりが欲しい！　軀が、いたわりのほうを向いてしまったのだ。

茂　いたわり、いたわりって、うるせえ娘コだな。

健　どうやらこの村では、愛のことをいたわりと言うらしい。

茂　それなら、愛とか愛情ってしゃべったらよがべ。もったいつけなくてもいい。

健　どうも、祈りと話しているけど、あれも愛と同じ意味だ。

茂　んじゃ、あの爺と娘コは、同じ事で言いあいしてるのが？

健　そうじゃないだろう、きっと。僕たちが、何もかも一緒くたにして愛と呼んでいるのかもしれない。

茂　面倒くせえ事はなしだ。んだが、あの娘コは気に入ったぞ！

ウタル　ともかく、祈りの場に行こうぞ。

返事をしないで立つキルイに、ウタル、後から穏やかに説く。

ウタル　わしの娘なのだぞ、キルイ。祈りのウタルの娘なのだ。いたわりに心乱されてはならぬ。祈りは全ての源(みなもと)。祈りはまず世の中鎮(しず)めてくれる。世の中鎮まるから人々の心に安らかさが宿る。祈りを忘れて、心波立てて滅んで行った人群れや、国みやつこを、わしはこれまで多く見て来た。山を祈り、日を拝み、木々の葉に手を合わせねばの。そうでなくてもお前の年頃は燃えてしまう。いたわりの他のものが、目に入らなくなる。

キルイ　おらはそれでいい。

ウタル　短い間なら、それでもよかろう。だがお前は永く生きる。

キルイ　永くなくてもいい。

ウタル　若い時は、みなそういう。だがそれはカミダシに酔うのと同じ、ひとときの事だ。生まれ育つのも早いが、老いるのはもっと早い。

キルイ　おらも、ウタルのようになるのか？

ウタル　瞬(マバタ)きの間にな。

キルイ　瞬きの間にか。

ウタル　そうだ、瞬きの間だ。

キルイ　だからおらは、いたわりが欲しいのに。

ウタル　まあいい。祈りの場に遅れまいぞ。ノルイが待っている。

ウタル、歩き始める。キルイ、後をついて行こうとする。茂が飛び出す。止めようと袖引いて、健も出てくる。ウタル、キルイをかばって胸を張る。

茂　俺はその、怪しいもんでねえ。今日、急にここに来てしまったんだ。道に迷ってしまっただんだ。

ウタル、まじまじと見たまま。

茂　おい、さっぱり通じていねえ。熊野お前、東京弁コ使って聞いてみろ！

健　あのう、驚くのも無理ありませんが、僕らは自分がここにいる現実さえ摑めていないんです。一体、ここはどこですか？

ウタル、ますます首ひねる。

茂　東京弁コも駄目と来た。祈りますよ。山でもお日様でも、木の葉っぱでも。

ウタル　おお、祈るかい。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.